

# うまい「彩のかがやき」 県下全域での安定生産のために

「彩のかがやき」は、病虫害複合抵抗性を持った良食味品種として県下に広く定着しています。県産ブランド品目としての力を一層高めるためには、県内全域でおいしい「彩のかがやき」の安定生産技術が求められます。

そこで、県内各地より「彩のかがやき」玄米と水田土壌を収集し、玄米粗蛋白質含有率と、土壌の保肥力、栽培管理との関連を調査し、良食味安定生産のための条件を明らかにしました。

土壌の保肥力が20meq/100g以上の地域では5月下旬までに、それ未満の地域では6月上旬までに移植し、かつ、適正な施肥管理により、おいしい「彩のかがやき」が生産できます。なお、移植時期が6月下旬以降になると収量が大きく低下し、玄米粗蛋白質含量6.5%以下の達成も困難となります。

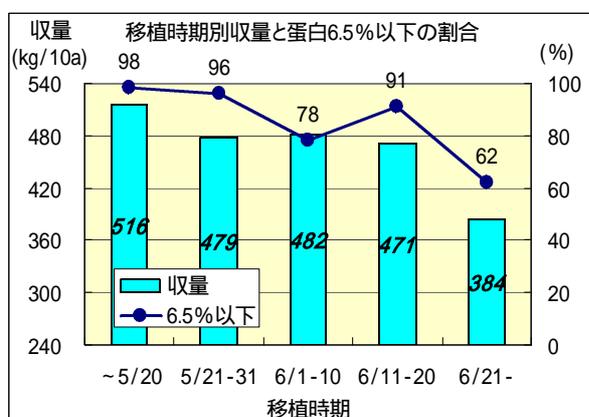


図1 移植時期別の収量と玄米粗蛋白質含量 6.5%以下の割合 (H17・18産)

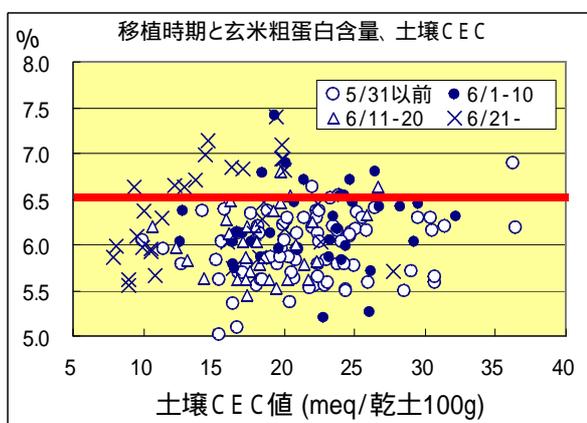


図2 玄米粗蛋白質含量と移植時期及び土壌CEC値との関係 (H17・18産)

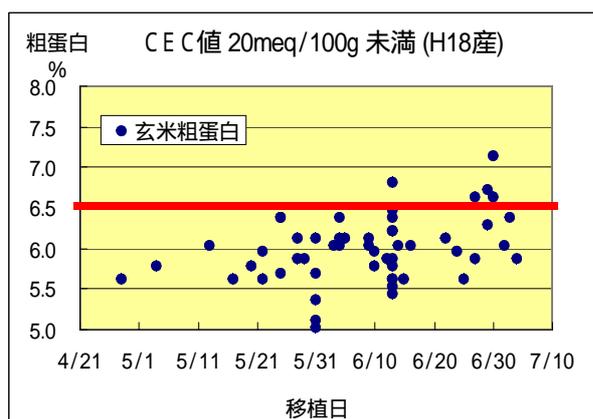


図3 土壌CEC値20meq/乾土100g未満のほ場における移植日と玄米粗蛋白質含量

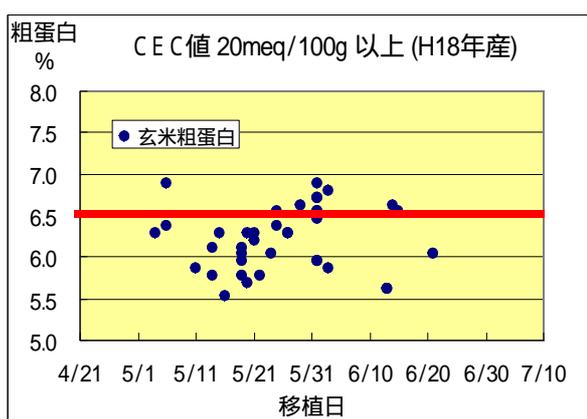


図4 土壌CEC値20meq/乾土100g以上のほ場における移植日と玄米粗蛋白質含量

(注)各図の玄米粗蛋白質含有量はインフラテック1255による測定値、水分15%換算。

CEC値：陽イオン交換容量 (Cation Exchange Capacity) のこと。通常、土壌100gあたりのミリグラム当量 (meq/100g) で表し、土壌の持つ保肥力高低の指標となる。砂質土壌では値は小さく、粘土や腐植含量の高い土壌では値が大きい。標準的な水田土壌では15~25meq。  
(戦略プロジェクト第1研究担当 TEL 048-521-5041)